

# AI チップ V3

## 配線マニュアル

1.0 版

2018 年 7 月 1 日

株式会社アールティ

## 改定歴

| 改定日      | バージョン | 変更内容 | 担当 |
|----------|-------|------|----|
| 2018/7/1 | 1.0 版 | 犬飼   | 高橋 |

## 目次

---

- [1. 注意事項](#)
- [2. 概要](#)
- [3. 配線方法](#)
- [4. お問い合わせ](#)

## 1. 注意事項

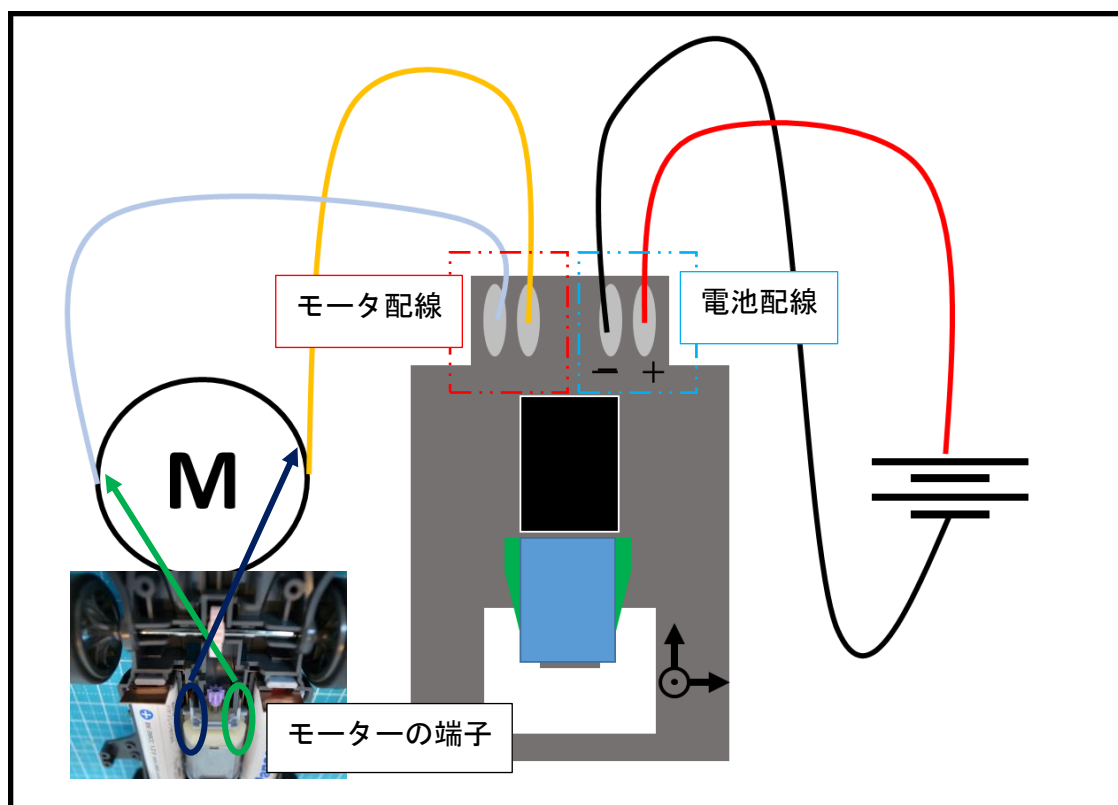
本製品をご使用頂く前に本マニュアルを熟読下さい。使用者および周囲の人に対する安全のため、内容をよく理解してから製品をお使い下さい。本製品をご使用したことによる、損害・損失について弊社は一切補償できません。

## 2. 概要

本マニュアルはAIチップの配線の方法について記述したものです。配線を間違えると基板上のICの破損につながるので、本マニュアルを熟読した上で配線作業を行ってください。配線ミスに等により電池の短絡が起きることがあるので危険性を留意して作業をしてください。

### 3. 配線方法

AI チップ基板でモーターを駆動するために必要な配線は、モーターからの配線とモーター用電源からの2つです。実際には電池の正極、負極を AI チップの右側の半田面に接続し、モーターを AI チップの左側の半田面に接続します。



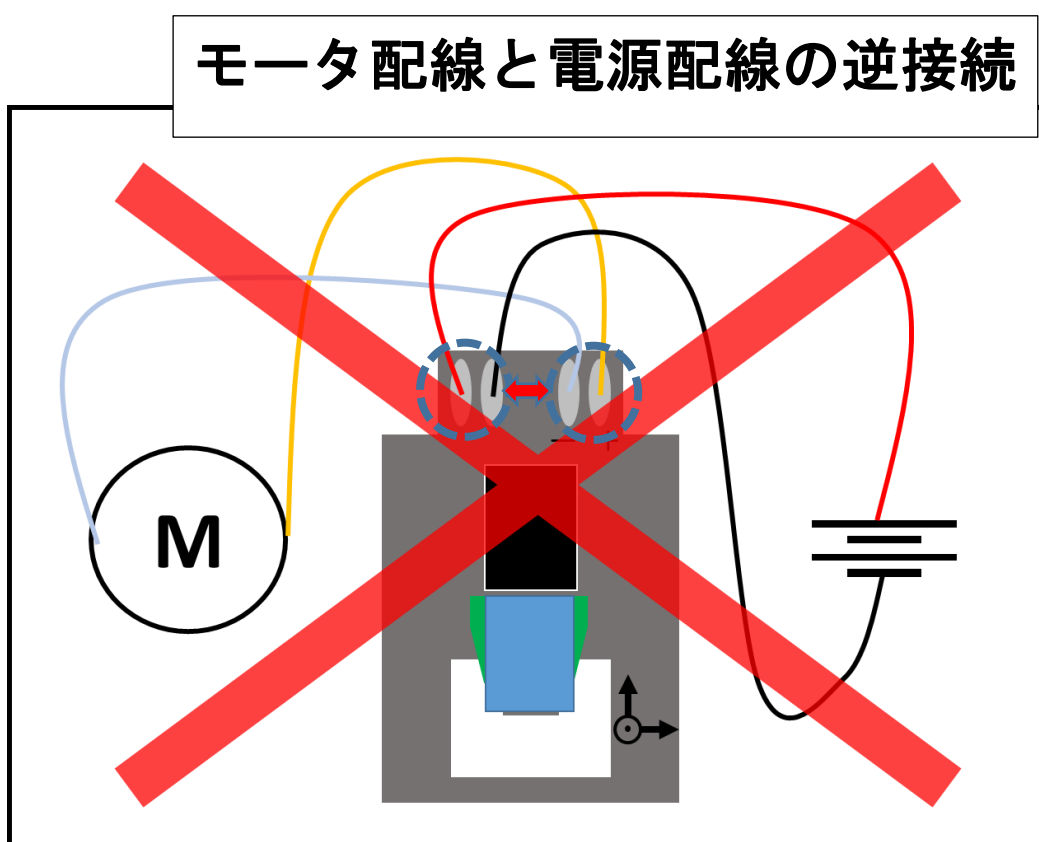
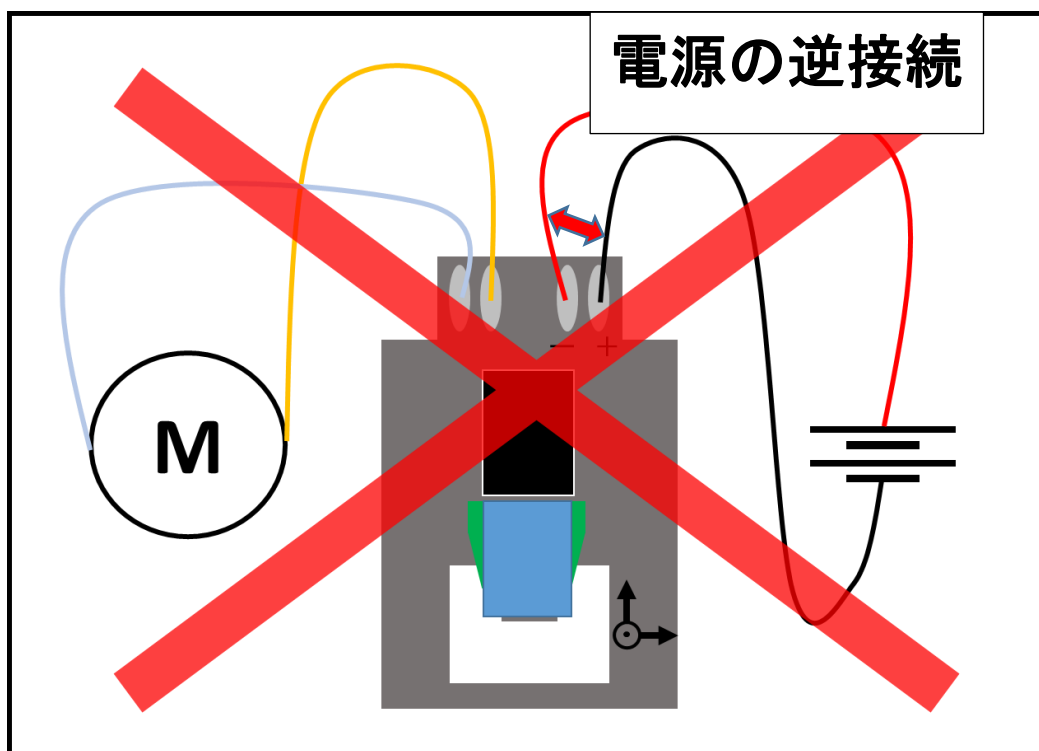
(Fig. 配線概要→概略図で配線の説明)

注意)

電源の配線を間違えますと、故障の原因となります。また、+極と一極がショートした場合も故障の原因となります。配線の際は、注意してください。

また、モーター部分の配線を逆にすると正転・後転が逆になるので注意してください。

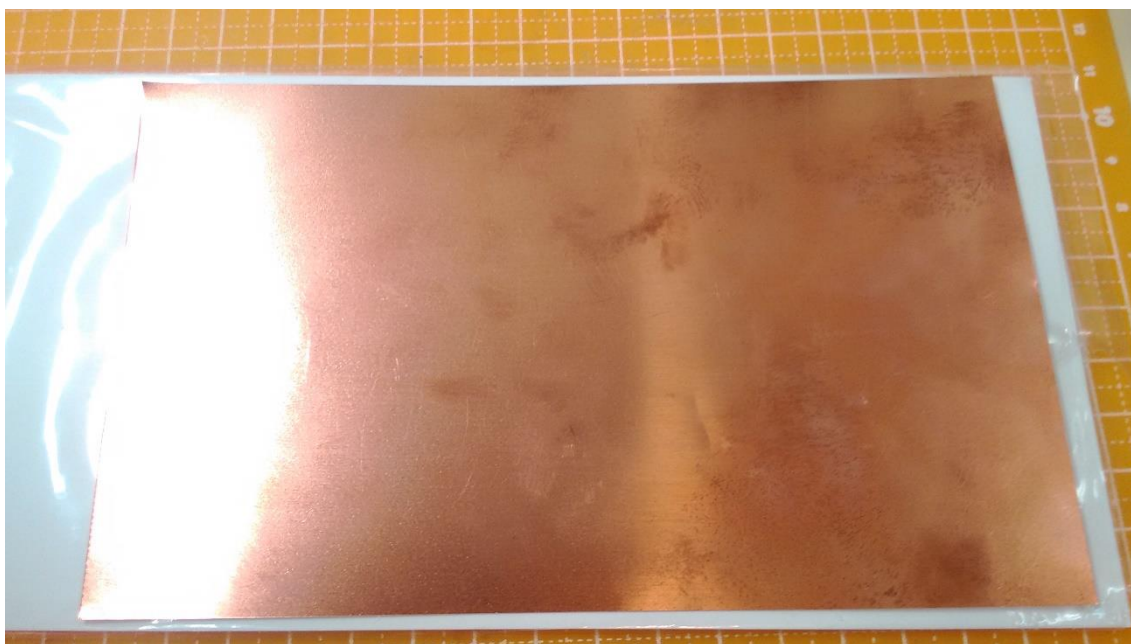
次のページに行ってはいけない配線の例を示します。



## 具体的な配線方法について

バッテリーケースに銅板を挟み配線する方法について説明します。

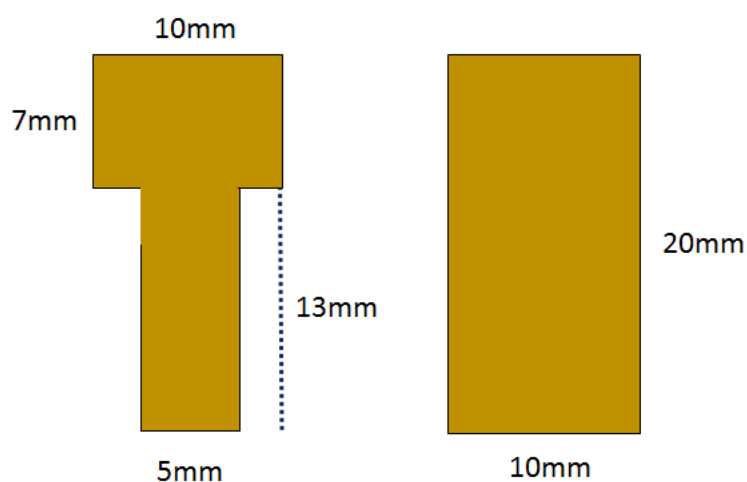
まず、次のような薄い銅板(下図の銅板は0.1mm厚)をホームセンターなどで調達します。  
この薄さの銅板ははさみで切ることができます。



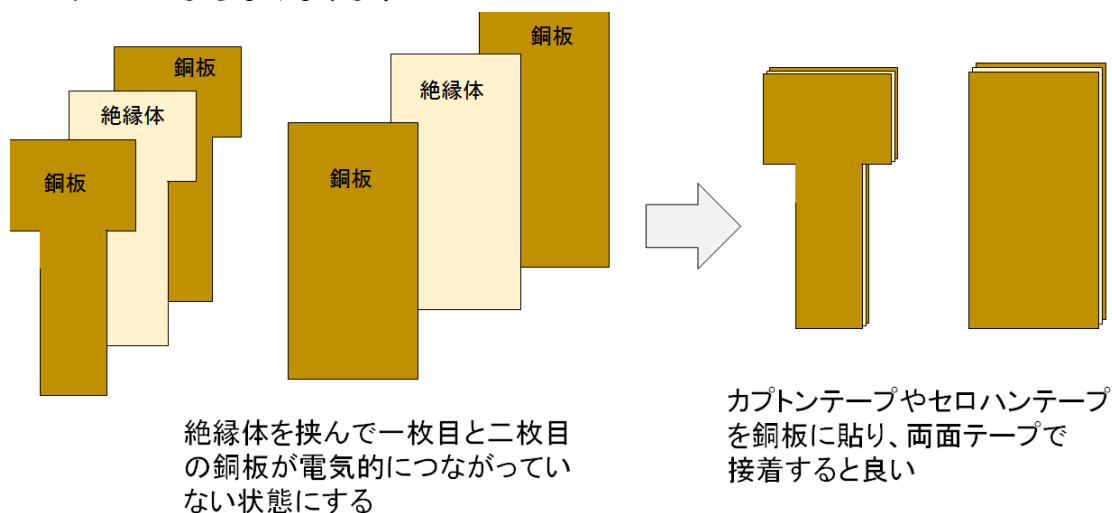
単三電池の+極側と一極側に、それぞれ配線用の板（以下配線板）を挟み、挟んだ配線板から配線を行います。配線板は次のような形状で作るのがおすすめです。



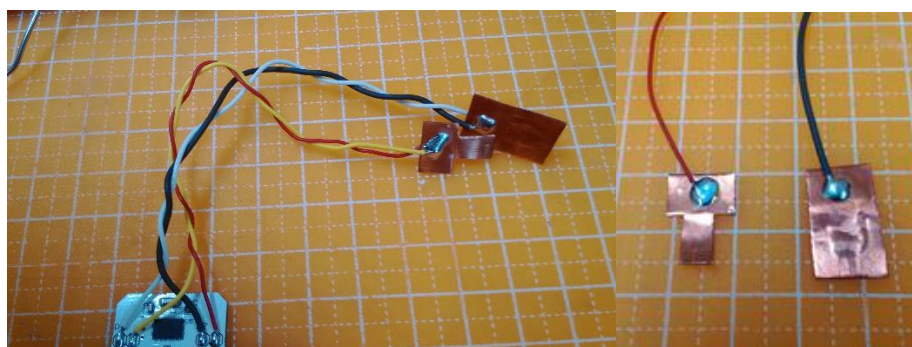
## 加工寸法図



絶縁体（例：カプトンテープ）を銅板などの配線材の半田付けが可能な導電体で挟みます。このとき両側の銅板が導通しないように気をつけてください。両側の銅板が導通しているとモーターが止まらなくなります。

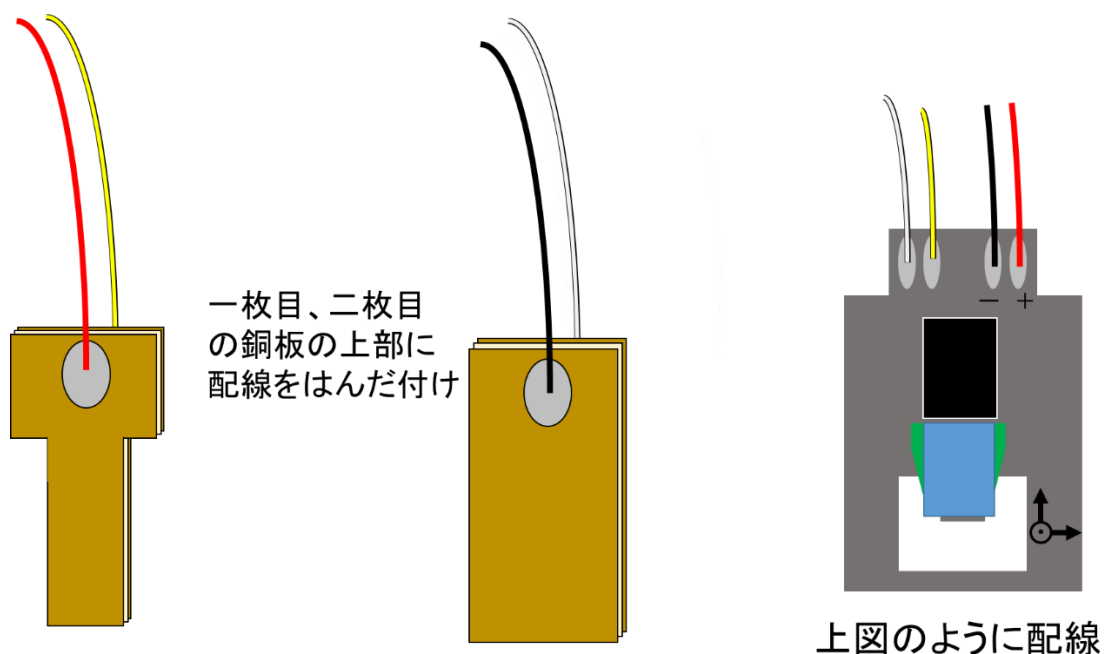


配線板の両側に配線材をそれぞれはんだ付けします。



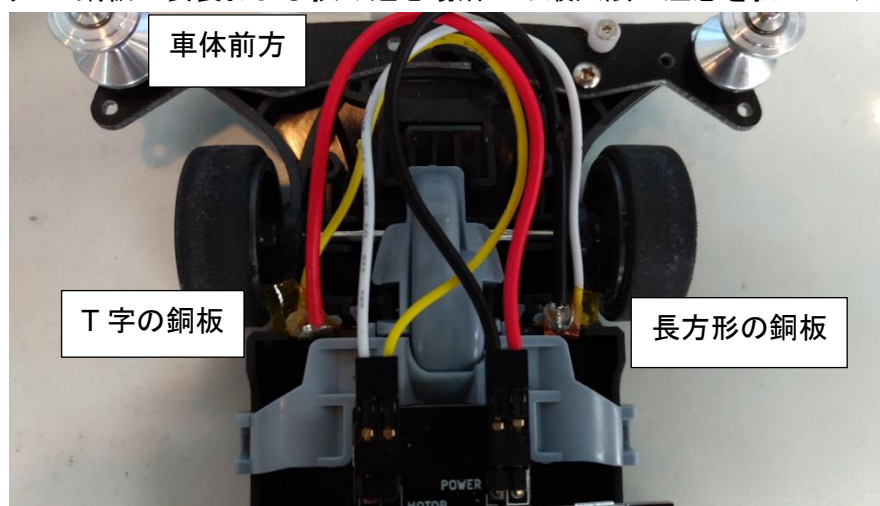


この時バッテリーケース側の銅板はそれぞれバッテリーの+極, 一極とつながっています。逆側の銅板はモーターとつながっています。配線板から出ている配線材を図のように配線します。



はんだ付けした配線板を、バッテリーケースに差し込みます。

T字型の銅版の赤い配線をしてある方を電池の+極側に、電池の-極側に長方形の銅板を挟みます。銅板の表裏および挟み込む場所には最大限の注意を払ってください。



以上で配線は終了です。

カスタム等も有料にて承っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。  
If you have any inquiries upon this product, please contact us at the following.

---

RT Corporation 株式会社アールティ

住所： 〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-2-13 山口ビル 3F

Address: 3F, 3-2-13 Sotokanda, Chiyodaku 101-0021, Tokyo, Japan

TEL +81-3-6666-2566 FAX +81-3-5809-5738

E-mail: [shop@rt-net.jp](mailto:shop@rt-net.jp)

Open: 11:00a.m. – 18:00p.m. (JST+9)

Close: weekend, national holiday, summer vacation, new year

---

#### Copyright

All the company and product names in this document are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

All the documents, photos, and illustrations are copyrighted and protected by the copyright law of Japan and overseas. All the contents in this document are not allowed to be uploaded to any public or local area networks such as the Internet without permission from RT Corporation.